

学校教育専修

授業科目名	担当者	講義概要
学校教育論	岡谷英明	現代学校の課程を理論的に解明することを目的とする。変貌する社会の中で教育システムがどのように編成されるべきかを考える。
学校経営論	平井貴美代	学校の経営過程や組織的特性に関する基本的事項について学習するとともに、開かれた学校づくりや学級崩壊など、最近とくに話題となっている問題についてアプローチするための視点や方法を検討する。 テキスト使用：『新版 学校教育の基礎知識』(協同出版)
生徒指導論	高柳真人	児童・生徒の自己指導能力を育てながら、その自己実現を援助するというガイダンスの視点に立った生徒指導を進めていくための理論や方法について学ぶ。
学習指導論	馬場園陽一	自ら学ぶ意欲や考える力の育成を目指す授業の方法、一人一人の児童生徒の良さを生かす授業の方法、さらにはこれらの力の育成を目指した教育評価の方法について、その理論的側面を探り、学習指導への実践的なアプローチを試みる。また、新しい学力観のもとで実践されている様々な授業方法（例えば、体験学習、総合学習、問題解決的学習、コース別学習、T・T等）についても紹介し、学力形成との関係を論じる。
教育相談論	金山元春	教育相談は、人間関係の営みの中で行われる実践活動である。本授業では、受講生の人間関係能力の開発を通じて、教育相談の実践力の向上をはかる。具体的には、グループワークを活用し、自己理解、他者理解を深めたり、社会的スキルを学んだりする機会を提供する。講義については、実践経験豊富な研究者あるいは実務家でありながら学会等で活躍されている方の研究成果を上げる。
情報演習Ⅰ	中西 秀男	高度情報化社会に積極的に対応できる情報処理の基礎能力を身に付けた教員の養成を目的として、コンピュータとソフトウェアの基本操作並びにネットワークの利用方法に関する演習を行う。情報演習Ⅰでは、Windowsの基礎、電子メール、文書処理及び表計算などよく利用される機能を中心に基本操作に重点を置いて演習する。
情報演習Ⅱ	赤松 直	ある程度習熟した人を対象に、コンピュータの活用能力、情報処理に関する総合力を身に付けることを目的として演習を行う。内容は、ネットワークの設定およびその基礎知識の習得、ホームページ作成、各種ソフトウェアの活用などである。これらを通して、情報化社会の課題や情報リテラシー教育についても一緒に考えることにする。自前のノートパソコンを携行願いたい。
教育哲学特論	岡谷英明	近代教育学の基本文献ならびに研究書の講読を通じて、教育哲学・教育思想における研究の基本的な論点を検討し、近代の教育観の超克について探求する。
教育哲学特論演習	岡谷英明	「教育の科学性」をめぐる問題を中心にドイツ教育哲学が抱える諸問題を哲学するとともに、あわせて「教育哲学する」ために必要な知と技法を身につける。
学校経営特論	平井貴美代	現在の学校の制度や組織運営を理解するための様々なアプローチ(その一例として歴史的手法)の有効性を考えるとともに、その方法論を体得する。また、学んだツールを用いて、諸外国や日本の具体的な動向を実際に読み解いてみる。
学校経営特論演習	平井貴美代	「学校の有効性」(School effectiveness)について、理論・ケーススタディ・事例研究などの側面から演習し、考察を深める。
道徳教育特論Ⅰ	田沼茂紀	モラル・ハザードの時代にあって、学校教育は家庭・地域とどのように連携しながら道徳性を子ども達に育めばよいのかを、理論と実践の両面から考察する。特に道徳的実践力育成の視点から道徳の時間の特質、道徳の時間の指導原理、道徳教育の評価方法と問題点等を課題として取り上げ、道徳教育充実に向けた方策を検討する。
道徳教育特論演習Ⅰ	田沼茂紀	わが国における戦後道徳教育の方法論的な変遷を辿りながら、そこに内在する問題点を明確化し、今後求められるアプローチについて検討する。本講では、特に道徳性発達の視点から、道徳性の特質を明確にしていくために、道徳性心理学において影響を及ぼした諸理論を比較的に分析・考察する。

学校教育専修

授業科目名	担当者	講義概要
生徒指導特論	高柳真人	生徒指導上の諸問題をふまえて、生徒指導の進め方、学校教育のあり方などについて考察する。
生徒指導特論演習	高柳真人	児童生徒の自己実現を援助するという視点から、学校や教員が行えるアプローチについて検討する。
社会教育特論	内田純一	本講では、学校教育と社会教育との関連を探究する。それは、「車の両輪である」といった皮相なものではなく、「学校教育・社会教育の統一的把握」の上になされる教育の再編原理として社会教育を捉えることで、その担うべき課題を明らかにしようとするものである。主要な文献講読を中心にしながら、各自の研究課題に即して、その視野を広げるとともに、研究の位置を絶えず確認できる授業を展開する。
社会教育特論演習	内田純一	修士論文執筆に関する指導を中心に、各自の研究テーマに沿いながら、社会教育学における研究方法論の習得を目指す。
教育心理学特論Ⅰ	馬場園陽一	教育心理学の主要領域の1つである学習と教授の理論と方法に関する講義を行う。児童生徒の側からは学習意欲の形成、問題解決能力、思考力などの育成、学習方略や認知的方略の獲得などに焦点をあてる。教師の側からは問題解決学習や体験的学習を重視し、かつ、個人差に応じ個性を生かす授業の方法を追求する。
教育心理学特論演習Ⅰ	馬場園陽一	児童生徒の学習過程を情報処理過程とみなし、認知心理学や認知発達研究からの知見を生かしながら、動機づけ、記憶、思考、問題解決、学習方略、メタ認知などの児童生徒の学習に必要な基本的な能力要因について検討し、望ましい学習の条件を探る。
教育心理学特論Ⅱ	藤田尚文	教育データ処理の諸技法について、講義する。正規分布にもとづく、さまざまな検定：相関にもとづくデータ解析の初歩的手法についてふれた後、因子分析、共分散構造分析の理論について述べる。
教育心理学特論演習Ⅱ	藤田尚文	教育心理学特論Ⅱの講義に即した演習を行う。受講者はコンピュータを用いてデータの分析を行うことを通じ、多変量解析の諸方法を学ぶ。演習のまとめとして、質問紙を自ら作成してデータを収集し、それを習得した手法を用いて分析する。
発達心理学特論Ⅰ	金山元春	社会性の発達に焦点を当てる。特に、心地よい人間関係を営むために必要な技能である「社会的スキル」に関する研究を取り上げる。研究資料や文献を探索しながら、社会的スキルと社会的適応、心理的問題との関連について考察する。また、個人的に必要なスキルを学習させることで社会的適応状態を向上させたり、心理的問題の解決をはかったりするための心理技法である「社会的スキル訓練」について学ぶ。
発達心理学特論演習Ⅰ	金山元春	社会性の発達を促す教育技法について学ぶ。特に、学校ですべての子どもに社会的スキルの学習機会を意図的、計画的に提供することによって、社会的スキルの不測から派生する問題を予防し、子どもの社会性の発達に寄与しようとする新しい技法である「社会的スキル教育(ソーシャルスキル教育)」に焦点を当てる。
発達心理学特論Ⅱ	古口高志	児童～青年～成人期という発達過程を踏まえながら「心理社会的ストレス」について学習する。はじめに、学習理論、心身相関メカニズム、ストレスプロセス、ストレスコーピング等ストレス研究における基礎的事項について学ぶ。続いて、講義や英文論文・和文論文の抄読等を通して、各発達段階に見られるストレス関連疾患・問題の特徴や対応方法について検討する。
発達心理学特論演習Ⅱ	古口高志	各発達段階におけるストレス関連疾患・問題について、1)生理・心理・行動学的手法による心理社会的ストレスのアセスメント方法を学ぶ。2)症状や問題の改善に有効な認知行動的アプローチの理論と技法を学ぶ。これらの内容を通して、多角的で柔軟な人間理解・問題理解の方法と対応スキルを身に付ける。
特別支援教育学特論 (障害児教育特論Ⅰ)	是永かな子	日本における障害児教育、特別ニーズ教育、特別支援教育をめぐる課題・論点を整理するため、日本における通常教育、障害児教育、特別ニーズ教育、特別支援教育の動向を検討する。講読予定の文献は随時提示する。内容に関する補足をしながら、輪読する。毎回のレジュメ発表は分担するが、最後に受講者全員で文献の内容について討論する。幅広く教育の問題を議論し、現代の教育において何を考えるべきかを考察する。本特論では同時に、ディスカッションスキルを身につけること、文献を読む力をつけること、論理的思考力を身につけることを目的とする。

学校教育専修

授業科目名	担当者	講義概要
特別支援教育学特論演習 (障害児教育特論演習Ⅰ)	是永かな子	修士論文執筆を念頭におき、知的障害を中心として、視覚障害・聴覚障害・肢体不自由・病弱等の障害についての研究方法論を習得することを目的として文献講読の演習を行う。講読文献は、受講者の研究テーマ関連領域の学位論文、雑誌掲載の原著論文・レビュー論文、紀要論文、学会発表要旨集録などから、受講者各人が収集して報告する。報告に基づき研究方法論について議論する。自分の研究テーマ以外の文献を講読することによって、それぞれの興味・関心を広げることも演習の目的とする。
LD等教育制度論	是永かな子	LD、ADHD、情緒障害、言語障害を中心として、視覚障害や聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱といった領域も含め、特殊教育から特別支援教育への転換を教育制度の観点から理解することを目的とする。具体的には、小・中学校や特別支援学校における現在の教育活動について概要を把握し、校内体制や個別支援体制の整備のための条件を受講者で議論する。また教員間・異業種間・学校間の連携のために何が必要かを考察する。本講義を通して、特別支援教育の実施のための制度的条件について共通認識を深めることをめざす。
知的障害臨床教育学特論 (障害児臨床心理学特論)	稲富眞彦	現代社会における知的障害者及び肢体不自由者の生存・成長を支える援助的実践、現代社会における知的障害者及び肢体不自由者の人間形成の課題と問題、さらに知的障害者及び肢体不自由者の生存・発達を支える発達援助者をめぐる課題と問題について知的障害者を中心に文献的アプローチを行う。文献としては発達教育学的アプローチ、臨床心理学的アプローチ、臨床教育学のアプローチに関する者を読み進めながら検討する。
知的障害臨床教育学特論演習 (障害児臨床心理学特論演習)	稲富眞彦	現代社会における知的障害者及び肢体不自由者の生存・成長を支える援助的実践、現代社会における知的障害者及び肢体不自由者の人間形成の課題と問題、さらに知的障害者及び肢体不自由者の生存・発達を支える発達援助者をめぐる課題と問題について主に知的障害者を中心に個々の代表的なケース(軽度・中度・重度・最重度、就学前・学校段階・青年成人期・老年期)をもとに検討する。
LD等臨床教育学特論	稲富眞彦	現代社会におけるLD等の障害をもつ子ども・大人の生存・視聴をささげる援助的実践、現代社会におけるLD等障害をもつ人間形成の加太と問題についてLD等の障害類型別に文献や具体的ケースをもとに教育、保健、福祉、労働の連携のあり方を含めて講義する。
知的障害心理学特論 (障害児心理学特論)	寺田信一	知的障害を中心として、視覚障害・聴覚障害・肢体不自由・病弱等の障害について、それぞれの障害の心理特性や発達の变化を把握することが重要である。本講義では、それぞれの障害に関わる障害児の心理や発達の基礎知識を講義し、次に個別の指導計画を立案する上で根拠となりうる障害児発達研究の紹介や、客観的な評価法といった実践に結びついた技能を講義する。
知的障害心理学特論演習 (障害児心理学特論演習)	寺田信一	知的障害を中心として、視覚障害・聴覚障害・肢体不自由・病弱等の障害について、それぞれの障害の心理特性や発達の变化にかかわる研究論文を紹介し、障害児を見る視点、行動の記述法、発達評価の考え方、各種心理検査の適用法やその限界について、受講生全員で討議しながら理解を深める。
LD等教育相談特論演習	寺田信一	LD、ADHD、情緒障害、言語障害を中心として、視覚障害や聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱といった領域も含め、通常学校や特別支援学校の教育現場における教育相談において必要とされる基礎知識と技能について、事例研究を紹介し、受講生全員で討議しながら理解を深める。
障害児病理学特論	倉繁 迪	ヒトの正常な成長、発達を理解した上で、主として発達障害及びそれらに関する疾病について、その原因、病理、臨床像、治療ならびに対処法について、これまでの研究、臨床経験をもとに講義し、あわせて参考文献の講読を行いながら学習する。
障害児病理学特論演習	倉繁 迪	主として発達障害及びそれらに関連する疾病について、その発生原因、病理、臨床像、治療法について学び、事例をもとに、あるいは障害児や慢性疾患を持つ病弱児に実際に接することによりかれらに対する理解を深め、問題点について分析検討する。
学校教育実践研究Ⅰ	高柳・岡谷・内田・田沼・平井	学校教育に関する附属校園等での研究をもとに、教育課程編成、生徒指導、教材内容・教材開発指導法などについて教育学の見地から理論的に研究することを指導する。
学校教育実践研究Ⅱ	高柳・岡谷・内田・田沼・平井	附属校園等の授業や学校運営に関する実践の観察・記録・参加を通じて、学校運営の実践的課題について、実証的に研究することを指導する。

学校教育専修

授業科目名	担当者	講義概要
学校教育実践研究Ⅰ(長期インターンシップ)	高柳・岡谷・内田・田沼・平井	附属校園等において専修指導教員及び実習校指導担当者のもと、教材開発、学級経営、児童生徒の観察、子どもとのふれあいにもとづく単元計画作成、または、LD、ADHD、不登校、乳幼児等子どもの観察にもとづく実習計画案作成を行い、実践的な課題研究テーマ設定の基盤を形成する。さらに、単元計画の実施、研究会への参加、公開研究授業、または、事例研究会への参加、ケース参加の実施を行い、結果を関連分野の研究方法に基づき省察することを通して、高度な専門知識・能力に裏付けられた実践的指導力を育成する。
学校教育実践研究Ⅱ(長期インターンシップ)	高柳・岡谷・内田・田沼・平井	附属校園等での研究をもとに、授業づくりに必要な条件、たとえば、教育課程編成、教育目標分析(目標の精選、構造化)、学習評価の方法、指導技術の開発、教授組織の改善などについて教育心理学の見地から理論的・実践的に研究することを指導する。
学校教育実践研究Ⅲ	馬場園・藤田・古口・金山	附属校園等での授業や学校運営に関する実践の観察・記録・参加を通して、児童・生徒の理解と問題行動、教育相談、教室における動機づけ、教師-子ども関係、仲間関係等について発達の見地から実証的に研究することを指導する。
学校教育実践研究Ⅳ	馬場園・藤田・古口・金山	附属校園等の授業や学校運営に関する実践の観察・記録・参加を通して、児童・生徒の理解と問題行動、教育相談、教室における動機づけ、教師-子ども関係、仲間関係等について発達の見地から実証的に研究することを指導する。
学校教育実践研究Ⅲ(長期インターンシップ)	馬場園・藤田・古口・金山	附属校園等において専修指導教員及び実習校指導担当者のもと、教材開発、学級経営、児童生徒の観察、子どもとのふれあいにもとづく単元計画作成、または、LD、ADHD、不登校、乳幼児等子どもの観察にもとづく実習計画案作成を行い、実践的な課題研究テーマ設定の基盤を形成する。さらに、単元計画の実施、研究会への参加、公開研究授業、または、事例研究会への参加、ケース参加の実施を行い、結果を関連分野の研究方法に基づき省察することを通して、高度な専門知識・能力に裏付けられた実践的指導力を育成する。
学校教育実践研究Ⅳ(長期インターンシップ)	馬場園・藤田・古口・金山	附属校園等において専修指導教員及び実習校指導担当者のもと、教材開発、学級経営、児童生徒の観察、子どもとのふれあいにもとづく単元計画作成、または、LD、ADHD、不登校、乳幼児等子どもの観察にもとづく実習計画案作成を行い、実践的な課題研究テーマ設定の基盤を形成する。さらに、単元計画の実施、研究会への参加、公開研究授業、または、事例研究会への参加、ケース参加の実施を行い、結果を関連分野の研究方法に基づき省察することを通して、高度な専門知識・能力に裏付けられた実践的指導力を育成する。
特別支援教育実践研究Ⅰ(障害児教育実践研究Ⅰ)	寺田・稲富是永	知的障害、肢体不自由、病弱、視覚障害、聴覚障害、LD、ADHD、自閉症、不登校、乳幼児等を対象として、附属校園等での研究をもとに、教育課程編成、児童・生徒指導、教材内容・教材開発、指導法などについて、特別支援教育の見地から理論的・基礎的な研究を行なうことを指導する。
特別支援教育実践研究Ⅱ(障害児教育実践研究Ⅱ)	寺田・稲富是永	知的障害、肢体不自由、病弱、視覚障害、聴覚障害、LD、ADHD、自閉症、不登校、乳幼児等を対象として、附属校園等での授業や学校運営に関する実践の観察・記録・参加を通じて、児童・生徒指導、カウンセリング、教育測定・評価等について、実証的な研究を行なうことを指導する。
特別支援教育実践研究Ⅰ(障害児教育実践研究Ⅰ)(長期インターンシップ)	寺田・稲富是永	知的障害、肢体不自由、病弱、視覚障害、聴覚障害、LD、ADHD、自閉症、不登校、乳幼児等を対象として、附属校園等において専修指導教員及び実習校指導担当者のもと、指導担当者の児童生徒への指導の補助を行ないながら、教材研究、学級経営、児童生徒の観察・ふれあいに基づく単元計画の作成、または、観察、心理検査等の実施に基づく実習計画の作成を通して、実践的な課題研究テーマ設定の基盤を形成する。
特別支援教育実践研究Ⅱ(障害児教育実践研究Ⅱ)(長期インターンシップ)	寺田・稲富是永	特別支援教育実践研究Ⅰ(長期インターンシップ)で作成した単元計画に基づいた指導実習を実施し、公開研究授業をおこなう、または、実習計画にしたがって実習を実施し、事例研究会に参加する。その結果を、実践研究に関わる関連分野の研究方法に基づき省察することを通して、高度の専門知識・能力に裏付けられた実践的指導力を育成する。
課題研究	馬場園・藤田・寺田・田沼高柳・内田・	より専門的なテーマ(分野)を設定し研究を深めるとともに、修士論文に直結する研究を指導する。